五島列島で有機安納芋の産地化に取り組む アグリ・コーポレーション

――オーガニックをプラットホームとした街づくりを目指して――

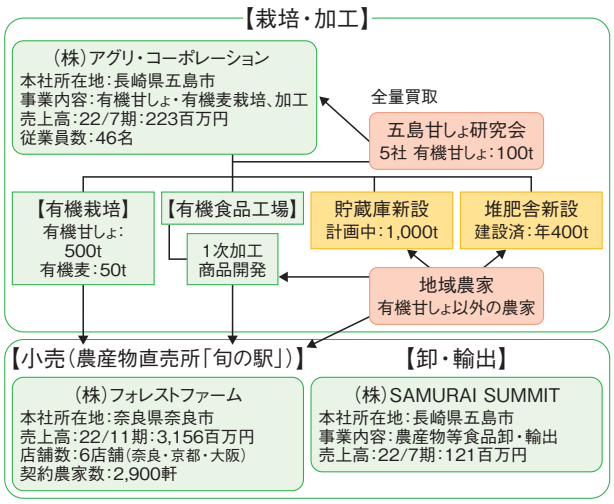
理事研究員　堀内芳彦

みどりの食料システム戦略で2050年までに有機農業の取組面積割合を25％に拡大する目標が掲げられた。この目標達成に向けた参考事例として、長崎県五島市で耕作放棄地を再生し、有機甘しょの生産から加工・販売を手掛け、全国初の有機安納芋の産地化に取り組む(株)アグリ・コーポレーション(第１図参照)について紹介する。

1　農業コンサルタントを目指し農業で起業

(株)アグリ・コーポレーションの佐藤社長は、京都府出身で大学卒業後、03年に大阪市の会計事務所に就職。様々な業種を担当し、将来的には独立起業する思いを抱いていたなかで、当時珍しかった農業コンサルタントを目指したいと考え、まずは農業を知ろうと、11年に妻の祖父の出身地である五島で競売に出ていた1.3haの農地を取得。同年に農業生産法人として同社を設立した。

第1図　アグリ・コーポレーションの組織関係



資料　当社提供資料、各社HP

2　有機甘しょ栽培に特化

当初は甘しょ、じゃがいも、ネギなど少量多品目を試行錯誤しながら栽培していたが、離島で輸送コストが高い等のハンディがあり収支は厳しい状況が続いた。

近隣の茶農家が有機JAS認証を取得したことを参考に、18年に貯蔵ができ加工のバリュエーションの高い甘しょに着目し、差別化戦略として甘しょ（安納芋、紫芋)の有機栽培を開始。同年有機JAS認証を取得し、21年からは有機甘しょ栽培に特化している。

22年の農地面積は45ha(１区画40a程でほ場数120枚)で、元耕作放棄地が半分。栽培品種は安納芋７割、紫芋２割、芋おとめ１割で、堆肥は牛ふん・豚ぷん堆肥、肥料は有機JAS認定の元肥、自社製造の納豆菌・酵母菌等を使用している。

同社は「さつまいもサミット2022-23」でファーマーズ・オブ・ザ・イヤーを受賞。受賞理由は有機・無マルチ栽培で味が格段に向上したことにあるが、栽培管理が難しく安納芋の単収は1,500kg/10aにとどまっている。

まずは単収2,000kg/10aを目指し、雑草対策として中耕機による除草方法の改善、BLOF理論(生態系調和型農業理論)に基づく太陽熱土壌消毒や土壌診断分析による必要なミネラル等の施肥の試行などを行っている。また、21年からほ場の半分で有機麦(大麦９割、小麦１割)の輪作を始めている。

3　有機甘しょ加工による高付加価値化

15年に規格外の甘しょの有効利用と高付加価値化のため、地元名物のかんころ餅をヒントに、甘しょを原料とした歯固め用ベビーフード「おしゃぶー」の自社製造・販売を開始。19年には４億３千万円を投じて有機JAS認証取得・HACCP対応の食品工場を建設し、和洋菓子用原料の１次加工品（有機甘しょペースト・パウダー等）の製造を開始。20年にはペーストを使用した安納芋バター、ポタージュ等のPB商品の委託製造・販売を開始した。

有機甘しょの2L以上をベビーフード、L・Mを国内青果販売、S・2Sを輸出青果販売、焼き芋、規格外をペースト、パウダー等と全量を有効活用している。

4　価格決定権を持ち販路を拡大

販売は当初から市場出荷をせず、社長の前職の経験を生かし独自に販路を開拓。有機安納芋は非常にニッチな商品で生産者が価格決定権を持つことができるのが強み。

商品別の売上構成は青果５割、１次加工品４割、PB商品１割で、販路は量販店、コンビニ、生協、自然食品店、食品メーカー、輸出など多岐にわたる。特に量販店は差別化戦略で総菜とPB商品開発に注力しており、そこへの売り込みを営業戦略の重点の一つとしている。

5　小売、卸・輸出の分社化

農業コンサルタントを目指すなかで、農家には市場出荷以外の販路が必要と考え、13年に農産物直売所「旬の駅」を運営する（株）フォレストファームを設立。23年５月時点で関西に６店舗、契約農家は2,900軒に拡大。自社有機かんしょの小口販売、五島地域の有機甘しょ以外の農産物の小口販売も担う。

また、今後の国内食品市場の縮小を見据え、19年に卸売と輸出を担う（株）SAMURAI SUMMITを設立。23年は東南アジア中心に31百万円の有機甘しょ・加工品の輸出を見込む。

小売、卸・輸出の分社化により、他流試合が組織に風穴を開け、専門人材を育て、キャッシュポイントを複数持つことで、農業を持続可能なビジネスにすることを目指している。

6　全国初の有機安納芋の産地化計画

21年に20年後の経営ビジョンとして「オーガニックをプラットホームとした街づくり」を掲げた。具体的には、①五島市三井楽町の耕作放棄地600haの再生、②同町にある全空き家の活用、③移住者（同市には18年以降毎年200人以上が移住）・五島市民が働きたい会社づくり、④超大型オーガニックファーマーの実現、⑤有機安納芋の魅力・価値の最大化に取り組む。

有機安納芋の魅力・価値を最大化するため、30年までに全国初の有機安納芋の産地化を図る栽培計画を策定。近隣の農業法人５社と五島甘しょ研究会を立ち上げ、22年時点で自社と５社（５社には全量買取の条件で生産委託）で甘しょ栽培面積30ha、収穫量600tを、30年までに契約農業法人を15社に拡大し、150haで4,000tの収穫量を目指す。

目標達成のため、必要な設備として堆肥舎（建設済み）と冷蔵貯蔵庫（計画中）を新設し、農地・人材確保や離島補助金活用等で自治体等と連携していく。また、B2Cのファン獲得のため、22年にオウンドメディア「五島商店・佐藤の芋屋」のポータルサイトを開設した。

当面の課題として有機農地拡大、単収向上、貯蔵体制整備、販路開拓が挙げられているが、離島のハンディを乗り越え、有機農業で地域活性化を目指す優良事例となることが期待され、同社の今後の動向に注目したい。

（ほりうち　よしひこ）